

豊寿園

FRUITFUL TREE

豊かな樹

Summer 2025

Vol. 67

JAPANESE RED CROSS

SOCIETY FUKUOKA

PREFECTURAL CHAPTER

THE SPECIAL NURSING HOME

HOUJYUEN

TOPICS

AREA INFORMATION

HOUJYUEN×FAMILY

HOUJYUEN'S ALBUM



トピックス

T O P I C S



門司みなと祭りに参加しました！

5月に門司みなと祭り祝賀パレードにハートラちゃん、けんけつちゃんと参加しました。たくさんの声援ありがとうございました。



ボランティア清掃を行いました！

5月の赤十字月間にあわせ、北九州赤十字看護奉仕団じゅんの会の皆さんと門司港レトロ地区の清掃活動を行いました。



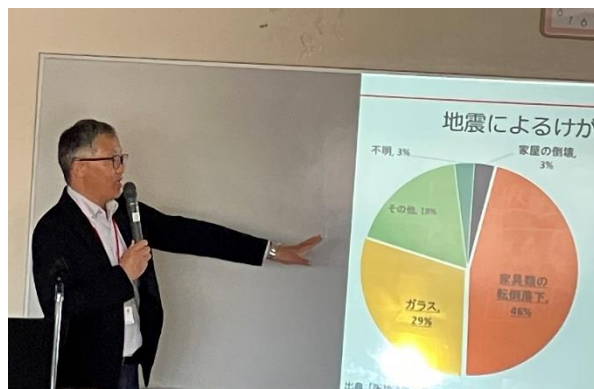
取組成果の発表会を行いました！

介護職員が昨年取り組んだ成果の発表会、H-1グランプリ2024を開催しました。優勝チームにはトロフィーと記念品が贈られました。



フランスベッド様からご寄贈頂きました！

フランスベッドホールディングス株式会社様より利用者様用の福祉機器をご寄贈いただきました。利用者様の生活に大切に使用させていただきます。



尾倉市民センターへ出講しました！

森園長、荒木生活相談係長が八幡東区の尾倉市民センターで防災についての出前講座を行いました。



入所検討会議を開催しました！

6月からの半年間、特養の入所をお待ちいただく順番を決定する為、外部委員を交え、入所検討会議を開催しました。

地域ぶらり情報



ビルマうどん知っていますか？

以前は門司駅近くにあったお店『花千里』が、2024年12月に新門司地区の松ヶ江北小学校近くに移転しました。駐車場からは道案内の看板を頼りに、畑や緑が多い小道を歩いていくと、奥に黄色い暖簾が掛かったお店があります。店内はカウンター席とテーブル席があり、カウンター席ではお話好きな女将と楽しく会話をしながら食事を楽しむことができます。名物の「ビルマうどん」は、スパイスの効いたカレースープをベースにしたうどんで、煮込んだ鶏肉がトッピングされています。辛さは希望に応じてうどんのダシで調整してくれるので、お好みに合わせて楽しめます。ビルマうどん以外にも、夏季限定の「肉味噌夏野菜冷麺」や「トマトそうめん」も提供されています。冷麺には、三年寝かせた手作りの肉味噌と自家製の鶏チャーシュー、新鮮な夏野菜が使われており、「トマトそうめん」は数量限定のため、事前に電話で問い合わせください。お店では「無添加」を大切に考え、自然農法で育てた無農薬野菜など、できる限り良質で、食材そのものの美味しさを最大限に引き出した料理を提供しています。ぜひ一度、足を運んでみてはいかがでしょうか。

『心のふるさと花千里』

北九州市門司区畑715-2

OPEN 11:30 ~14:30

18:00~21:00

店休日 月・火・金曜日

TEL 093-861-9936



あとがき

大阪・関西万博に出展している国際赤十字・赤新月運動館に応援職員として派遣されてきました。と言っても、本稿作成時点では未だ派遣前のため、内容は全く分かりませんが、きっと「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマに相応しいパビリオンがたくさん展示されていることと思います。私の万博体験は1989年のよかトピアで初めてスリランカ料理を食べたくらいしかありませんが、私たちの介護業界でも未来的な機器がたくさん出てきています。また、生成AIなども私たちの業務を信じられないほど簡単にしてくれます。人不足という日本全体の課題に対して、そういった機器などを使いながら、工夫を凝らして乗り越えていきたいと思っています。

豊寿園では、老いも若きも、常に情報やアイデアをもとに、今を、よりよい物にするために職員達が日々、取り組んでいます。そういった取り組みはこの「豊かな樹」でご紹介していきます。今後も、豊寿園に是非、ご期待ください。

広報担当 森 英樹



今回のCOVER

今回表紙を飾ってくれたのは、今年4月に豊寿園の事務課庶務係へ新卒入職された松尾星那（まつおせな）さんです。新しい仕事を覚えつつ、プライベートでは推し活に勤しむ日々だそうです。慌ただしい仕事を終えてから、旅行雑誌をイメージした門司港駅での撮影に協力してくれました。当日は、外国人観光客から浴衣姿に喝采を浴びながらの撮影になりました。

発行日：令和7年7月15日

発行元：日赤豊寿園

編集：令和7年度日赤豊寿園広報担当者

表紙撮影：城戸匡美(ディサービス職員)

撮影場所：JR門司港駅

所在地：〒800-0112 北九州市門司区大字畑1808-5

TEL 093-481-1121 FAX 093-481-5678

Email info.houjyu.jrc@cnc.bbq.jp

あなたと向き合った日々 HOUJYUEN × Family

今回は、令和5年12月に豊寿園でお看取りさせていただきました竹田サツ子様の利用開始から最期の時までの経過について、ご家族の了解のもと、園内の記録をもとにご紹介します。

竹田サツ子様は、鹿児島県下伊集院町に9人兄弟の4番目として生まれました。鹿児島市内の女学校を卒業後、母親が裁縫をしていたため、手伝っていました。23歳の時にお見合いで結婚し、門司に移住されました。結婚後は3人の息子を育て、内職として裁縫も続けていました。

平成16年頃から物忘れやお金の管理ができなくなるなど認知症様症状が現れました。平成18年に専門医を受診し、アルツハイマー型認知症と診断され、アリセプトの内服を開始されまし

平成16年頃から物忘れやお金の管理ができなくなるなど認知症様症状が――



今回ご紹介する竹田サツ子様。賑やかな事が大好きで、とてもお元気な方でした。

た。一時的に1年間、岡垣町の親戚宅に身を寄せていましたが、その後、長男様が介護のために同居を始めたことをきっかけに元の家に戻り、それ以降は長男様との二人暮らしをされました。豊寿園には平成21年から入所申込をされ、待機されていました。

平成25年頃には食欲が減少し、11月にはほとんど食事をとらなくなったため受診したところ、胃に10cm大の柿石が見つかりました。内視鏡とコーラでの胃洗浄を繰り返して、症状は改善しましたが、その後も平成26年3月には脳梗塞を起こし、新小文字病院に入院されましたが、麻痺などの後遺症はなく、在宅生活を続けていました。

――看護師が血圧を測ろうとすると、とても高い値が出るなど落ち着かない様子でした。――

平成26年7月9日から豊寿園でのショートステイを開始されました。利用当初は環境の変化もあり、看護師が血圧を測ろうとすると、とても高い値が出るなど落ち着かない様子でした。また、平成27年5月29日にショートステイから帰宅された後、気分不良を

訴え、新小文字病院を受診したところ脳梗塞と診断され入院されましたが、その時も後遺症はなく経過は良好でした。

同居して介護を担っていた長男様は介護施設で勤務されており、家を留守にすることもありましたが、竹田様は近くのスーパーに一人で出かけ、戻ることができていました。

――「桜島――！」と大きな声で唄っていたのが印象的でした。――



敬老会で白寿のお祝いをした時のお写真。ベッドでの生活でしたが、しっかりおめかして長男様と記念撮影ができました。

平成27年10月には豊寿園にご入所されました。当時はお一人で歩かれることができ、トイレもご自身で処理されていた。性格はせっかちで世話焼きな方で、鹿児島訛りの話し方が印象的でした。周囲の利用者様や職員に気を配りながら、慌てて歩こうとして転倒されることもあり、職員からは目を離すことができない方でした。同じテーブルの方々に元気に話しかけ、レクリエーションにも率先して参加され、特に生まれ故郷の小原節を好まれ、「桜島——」と大きな声で唄われていたのが印象的でした。

—令和3年になるとさらに体調が変化し、起きて過ごすのが困難になり—

令和2年ごろになると、自力での食事や歩行が可能であったものの、日中の居眠りが増えてきました。そして令和3年になるとさらに体調が変化し、起きて過ごすのが困難になりました。血液の循環動態が不良となり、起きている間は手足の血色が悪くなるため、日中もベッドで過ごされる日が増えました。また、自力で食事をとることが難しくなり、介助が必要になっていきました。

同年5月には嘱託医より「終末期の状態」と診断されたため、長男様に來園いただき、今後の方針を相談しました。長男様は「もう年も年だから、無理なことはしたくない」と希望され、看取り対応が開始されました。ムリなくお食事を召し上がっていたため、栄養補助食品に食事内容を変更しました。また、ご家族には饅頭などの和菓子や、柿石の治療後に止めていた大好物の柿を持参してもらい、厨房でミキサーにかけて提供しました。竹田様は「おいしー！」や「まだ寝らんよ」などと会話を楽しまれていました。

その後、自ら体を掻きむしる様子が増え、令和4年になると食後の痰がらみが見られるようになりました。同年9月には敬老会で白寿のお祝いを長男様や職員とともに行いました。

—長男様は「もう年も年だから、無理なことはしたくない」と希望され—

令和5年には看取り対応を開始して2年が経過しました。ベッド上での生活を送られながらも、時折、レクリエーションに参加され、小原節を声高らかに唄われることがありました。しかし、皮膚トラブルが続き、体を掻き

むしたり、臥床中に両手を激しく動かされたりすることで怪我が見られるようになりました。そのため竹田様の入浴介助は看護師を含む4人がかりで行われました。同年9月の敬老会では100歳のお祝いを行い、看取り対応開始後、2度目の節目となりました。

11月には胸に帯状疱疹ができ、総合病院で点滴治療を受けられました。約1か月後に退院されましたが、食事は可能でありながら血液中の酸素飽和度が低く、血色不良が悪化しており、痰が絡むため吸引が必要な状態となりました。ご家族は定期的に柿を持参される際も、「年やけ仕方ないね…」と冷静に状況を受け止められている様子でした。年末の12月22日頃からはオムツ内の排尿が減っていき、食事や水分の摂取ができなくなりました。24日には足先にチアノーゼが現れ、25日には全身に広がり、脈も触知しにくい状態となりました。26日午前中から呼吸状態が大きく変化し、午後には肩で息をされるようになりました。その後、居室内で流れる小原節を聞きながら、一度大きく息を吐かれた後、竹田様はその呼吸を止められました。長男様がすぐに到着され、手を摩られながら声をかけられ私たちの2年を超える看取り対応が終了しました。

賑やかなことが大好きだった竹田様。最期の瞬間も職員が多く居る昼間の時間帯を選ばれたかのようでした。私たちは竹田様が楽しそうに唄われる小原節の声を忘れません

開園記念プリン



6月 開演記念日に、いただいたご寄付でプリンを準備し、利用者様、職員とで美味しくお祝いました。

パフェ実演



5月 厨房職員が目の前でパフェを手作り。

門司区歯科医師会様の検診



6月 門司区歯科医師会の先生方に、特養利用者様の検診をしていただきました。治療が必要な方には、先生方に往診治療をしていただきます。

白野江植物園へ



6月 門司区の白野江植物園へ満開のアジサイ鑑賞に出かけました。

サンリブシティへ



6月 ご家族もお誘いしてショッピングモールに出かけました。

デ イ サ ー ビ ス

お花見



4月 桜のトンネルを通り桜を楽しんでいました。

口腔ケア



4月 歯科衛生士による口腔ケアが始まりました。

ドライブ



5月 白野江植物公園に出掛け季節の花を楽しみました。

保育所交流



6月 保育園児との交流を喜ばれていました。

運動会



6月 運動会をおこないました。色々な競技に白熱していました。

Summer2025

Vol . 67

TOPICS

AREA INFORMATION

HOJYUEN*FAMILY

HOJYUEN'S ALBUM



FRUITFUL TREE

JAPANESE RED CROSS SOCIETY FUKUOKA PREFECTURAL CHAPTER THE SPECIAL NURSING HOME HOJYUEN